

Accuphase

# QUARTZ LOCK SYNTHESIZER FM TUNER

FMステレオ・チューナー

# T-109V

## 取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程および結果が一台ごとの製品の履歴書として詳細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

### 3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、早くなるべく10日以内に返送ください。お客様カードと引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

**Accuphase warranty is valid only in Japan.**

### ⚠マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

**⚠ 警告：** この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

**⚠ 注意：** この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

### 目次

1. 各部の名前	1
フロントパネル、リアパネル	1
2. 接続図	2
3. ⚠警告 安全上必ずお守りください / ⚠注意	3
4. 特長	4
5. 各部の動作説明	5~8
6. リモート・コントロール	9
7. FMアンテナについて	10
8. 保証特性	11
9. 特性グラフ	12
10. ブロック・ダイアグラム	13
11. 故障かな?と思われるときは	14
12. アフターサービスについて	15

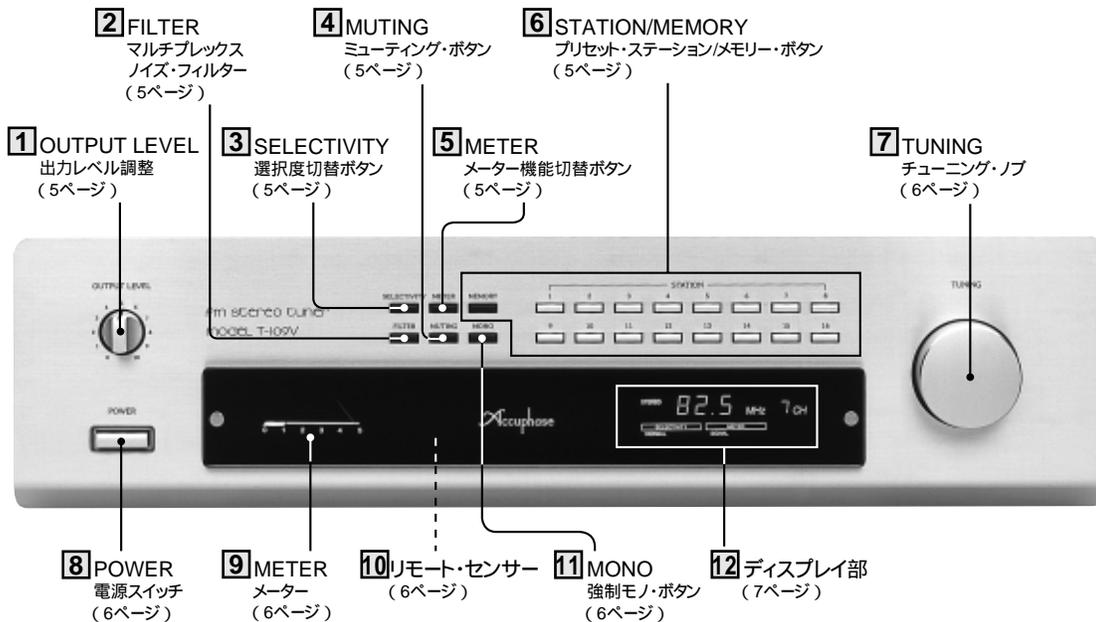
### 付属品を確認します

取扱説明書	1冊
安全上のご注意	1冊
お客様カード	1枚
AC電源コード(2m)	1本
リモート・コマンダー RC-12	1個
単3形乾電池	2個
F形コネクター	1個
プラグ付オーディオ・ケーブル	1組

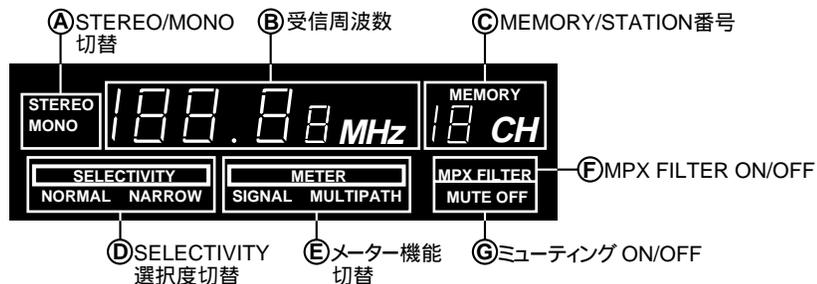
# 1. 各部の名前

詳しい説明は「各部の動作説明」(5~8ページ)を参照してください。

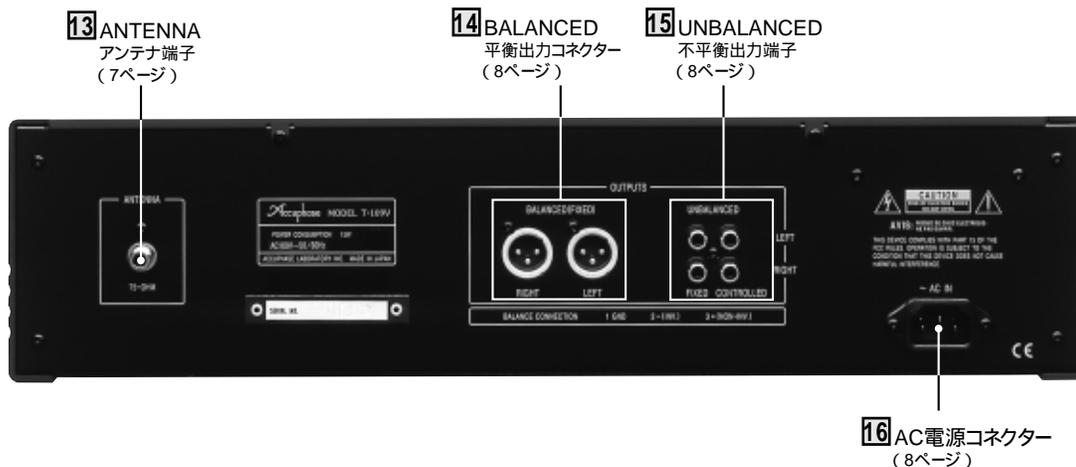
## フロントパネル(前面)



12 ディスプレイ部  
(説明用のイラストです。詳しくは7ページ参照。)

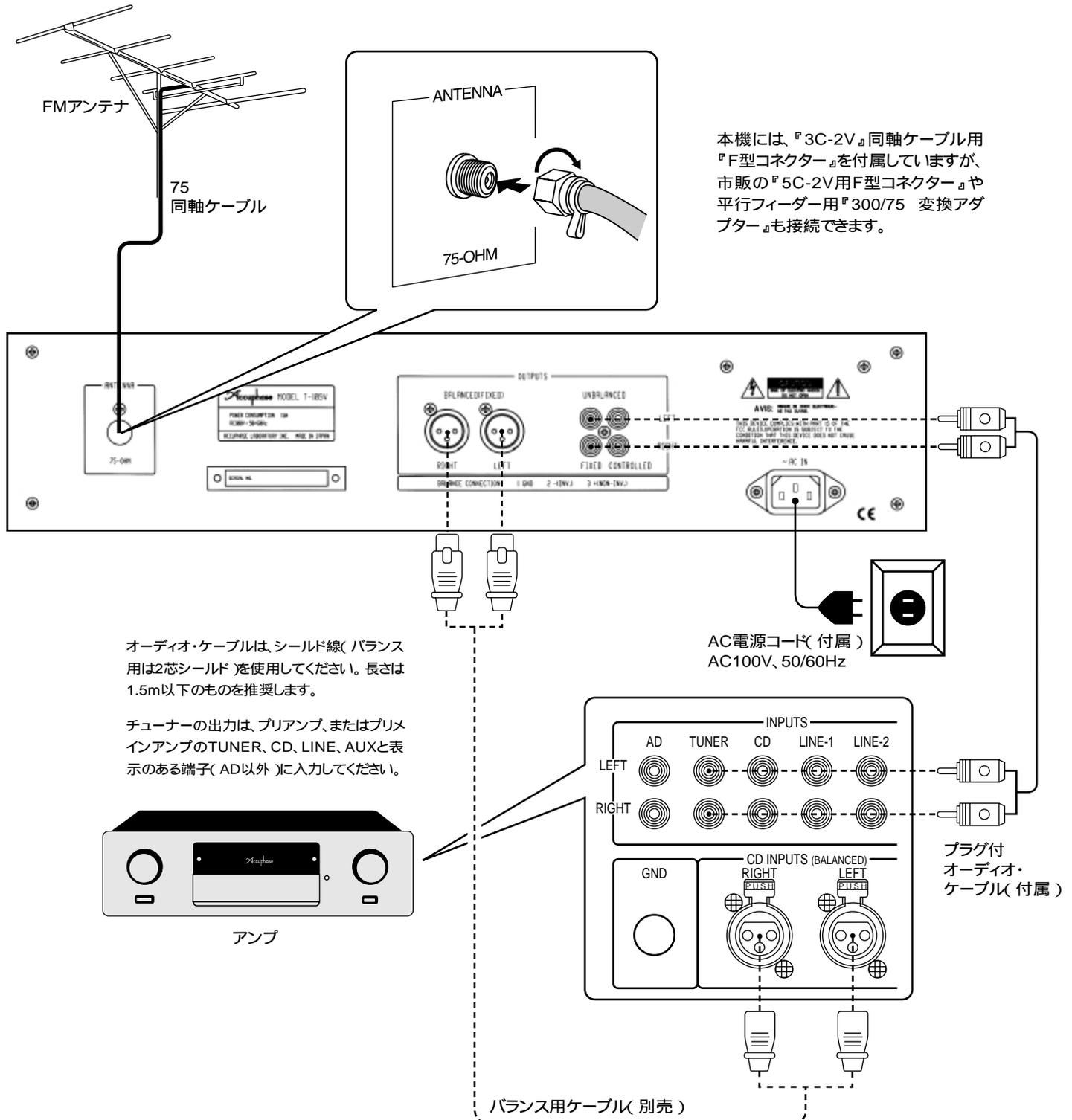


## リアパネル(後面)



## 2. 接続図

**⚠注意：** 接続するときは、かならず各機器の電源を切り、LEFT(左) RIGHT(右)を正しく接続してください。バランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



### 3. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100Vをご使用ください。  
電源周波数は50Hz、60Hzいずれの地域でも使用できます。

電源コードは取り扱いを誤ると危険です。  
付属以外の電源コードは絶対に使用しないでください。火災、感電などの原因となります。  
抜くときは、必ずプラグを持つ。  
ぬれた手で電源プラグを絶対にさわらない。

ケースや底板は絶対にはずさないでください。  
内部に手などで触れますと感電事故や故障の原因となり大変危険です。

“ヒューズの交換”など内部の作業はお客様直接はできません。必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

脚の交換は危険ですから行わないでください。  
取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

次の場合には、電源コードをコンセントから抜き、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。  
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。  
故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。

### 注意

入・出力コードを接続する場合は、必ず本機や接続する機器の電源を切ってから確実にこなしてください。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬グランド側が浮いた状態になるため、大きなショックノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

バランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

アンテナ工事は販売店にご相談ください。

送配電線から離れた場所に設置してください。電線に近いと、アンテナが倒れたとき、感電の原因となる場合があります。

強風の影響を受けないように、アンテナはしっかり取り付けてください。

雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

#### お手入れ

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

入出力端子などに接点保護剤などを使用しますと、樹脂部が経年変化で破損する場合がありますので使用はさけてください。

## 4. 特長

### 正確な電子同調方式

選局のための同調は、水晶発振子により高精度で希望局に同調することができ、時間や温度変化によるずれはほとんどなく、ひずみ最小、感度最高の点にロックします。電子同調のため、外部振動による変調ひずみや雑音は生じません。

### 大入力に強い、2段複同調回路のフロントエンド

多数の電波の中から希望局だけを選び出して、増幅し中間周波数に変換するのがフロントエンドです。弱い電波を選び出すのはもちろん、大入力局に対して混変調などを発生しないことも重要です。本機は2段の複同調回路とPINダイオードによるアッテネーターを設けています。このアッテネーターは、アンテナ入力レベルによってマイクロコンピュータでON/OFFし、送信パワーが近い超過大入力に対処、徹底した大入力妨害対策を施しています。

### アドバンスDGL検波回路

従来の検波回路に大幅な改良を加えて、アドバンスDGL (Differential Gain Linear) 検波回路を開発しました。この原理は高速C-MOS IC24個を直列に接続、この遅延信号と入力信号の電位で回路を開閉し、変調によって生じる疎密波をデジタル的に検出して、音声信号を取り出します。同調回路を使用していないので、遅延回路の直線領域が $\pm 2.4$ MHzと極めて広く、しかも無調整回路のため、安定したすばらしい微分利得直線性が得られます。これにより、低ひずみ率、高SN比、低キャプチャー・レシオの優れた性能を得ることができます。

### 極限の性能を誇るステレオ復調器

FM放送のステレオ信号は、38kHzのサブキャリアによって送信されています。受信側では、これに正確に同調したスイッチング信号を作り出し、L/R信号を取り出すのがステレオ復調器です。本機は、基準周波数にセラミック共振子を用い、制御電圧でコントロール可能な正負可変リアクタンス回路によって、従来の方式より狭い周波数範囲で正確なスイッチング信号が得られ、ステレオ復調の無調整化、長期にわたって初期の特性の維持、温度の変化やライン電圧の変動などによる分離度の変化がほとんどありません。これにより理想的なステレオ復調特性が得られます。

IF段はNORMAL(広帯域)、NARROW(狭帯域)の2段切替えFM放送は、周波数帯域15kHz、SN比およそ80dBほどで送られてきます。アナログ放送としては大変に広帯域ですので、通常は広帯域受信のNORMALを使用します。隣接放送局との混信の激しいときはNARROWに切り替えることにより、ひずみ率とステレオ分離度が多少犠牲になりますが、選択度重視のシャープな受信ができます。

### 各ファンクションを記憶できる、16局メモリー

あらかじめ放送局を16局までメモリーしておき、ボタンによって瞬時に呼び出すことができます。また、局によっては電波が弱くフィルターをオンにしたり、選択度を切り替える必要が生じます。本機は、その局の電波状況にマッチしたファンクションも同時にメモリーしておくことが可能です。

### アキュフェーズのオリジナル、パルスチューニング方式

メモリー選局のほか、使い勝手の良い回転ノブによる伝統的な同調器を装備しています。電子同調の周波数を変える動作を手動でできるよう開発したもので、回転ノブのシャフトに取り付けられた放射状スリットによってパルスを発生し、このパルスをカウンタして同調周波数を制御するものです。

### オーディオ出力にバランス/アンバランス出力端子の2系統を装備

オーディオ出力端子は、バランス用XLRタイプ・コネクターと不平衡用RCAタイプ・コネクターを装備しています。バランス伝送は音質の劣化を防止し、伝送途中の外来雑音によって誘発されたノイズを除去、ノイズフリーの高音質伝送が可能となります。

### マルチパスのチェックもできる多機能のメーター

メーターは切り替えスイッチにより『アンテナ入力信号レベル』と『マルチパス』のチェックができます。マルチパスは、FM放送特有のもので、多重反射波(ゴースト)によって発生するひずみです。これはアンテナの向きで防止することができ、メーターでマルチパスが最小になるように放送局を選んだり、アンテナの方角を調整したりします。

### その他の付属機能

付属機能として、電波の弱いステレオ局のノイズを低減する『ノイズ・フィルター』、局間ノイズを取り去る『ミュート・スイッチ』、強制的にモノラルにする『モノ・スイッチ』そして他のプログラムソースに音量を合わせるための『出力レベル・コントロール』等を完備しています。

## 5. 各部の動作説明

### 1 OUTPUT LEVEL 出力レベル調整

OUTPUTSのCONTROLLED端子の出力レベルを調整します。

### 2 FILTER マルチプレックス・ノイズ・フィルター

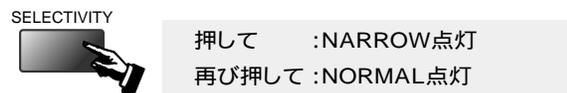
ステレオ放送受信時には、入力電波が弱いと、高音域のノイズが多くなります。このノイズを軽減するためのフィルターです。



このフィルターを入れると、高音域のステレオ分離度が悪くなりますので、通常はOFFで使用してください。  
モノフォニック放送のときは、ONにしても効果はありません。

### 3 SELECTIVITY 選択度切替ボタン

隣接局との混信が激しい時、中間周波増幅回路の帯域幅を変えて、選択度特性を切り替えるスイッチです。



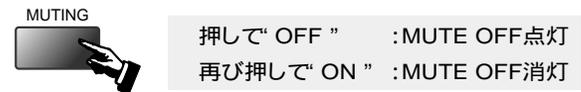
たとえば、A地区にあるA放送局 = 80.0MHz  
隣のB地区にあるB放送局 = 80.3MHz  
のように隣接局の周波数が近い場合。

A地区でB局を受信しようとする時、A局の強い電波が妨害して受信不能(混信)になります。逆に、B地区でA局を受けようとする時、地元のB局が妨害して受信不能になります。このようとき、「NARROW」にすると、妨害電波が取り除かれ、目的の弱い電波の放送局がクリアーに受信できます。

混信のないときは「NORMAL」でご使用ください。  
「NARROW」にすると混信はなくなりますが、ひずみ特性が若干悪くなります。

### 4 MUTING ミュート(局間雑音除去)ボタン

放送局を選んでいるとき、放送局のないところや電波の弱いところでは、ザーというノイズが聞こえます。このように放送局を離調(同調を外れたとき)したとき、局と局の間に出るノイズを除去するのが、ミュート回路です。この回路をON/OFFさせるボタンです。



弱い電波の放送局を受信するときは、OFFにしてください。  
ミュート回路がONのとき、雑音が多いとその放送局の音が消されてしまうことがあります。

### 5 METER メーター機能切替ボタン

このスイッチは、メーターの機能を切り替えます。スイッチを押すたびに、次のように機能が切り替わります。



(10ページをご覧ください)

### 6 STATION / MEMORY プリセット・ステーション・セレクター / メモリー・ボタン

任意の1から16のプッシュボタンへFM放送局を16局記憶させ、それらを瞬時に呼び出すためのボタンです。STATIONボタンを押すと、そのボタン番号とプリセットされた放送局の周波数が表示されます。

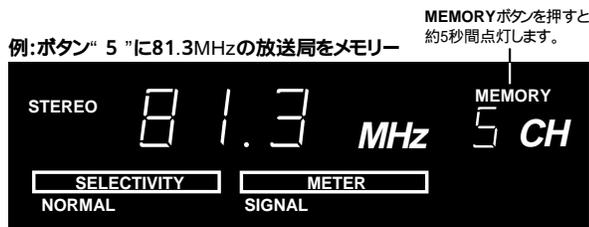
メモリーを呼び出して受信するとき

「1」～「16」のプッシュボタンを押します。

押されたチャンネル番号とメモリーされた周波数が表示され、放送されていれば受信できます。

プリセット(ステーション・メモリー)の方法  
TUNINGノブで希望する放送局を選びます。  
MEMORYボタンを押すと、表示部に“MEMORY”が約5秒間点灯します。  
その間に“1”~“16”の希望する番号のプッシュボタンを押します。  
“MEMORY”が消灯し、押されたボタン番号が表示され、そのボタンにプリセット(メモリー)されます。

この操作を繰り返して各ボタンに16局のプリセットができます。



前にメモリーした放送局を変更する場合にもプリセットと同じ操作をしてください。  
MEMORYボタンは押して5秒間待たなくても、再び押すと“MEMORY”が消灯して動作解除になります。  
STEREO / MONO、SELECTIVITY、METER、FILTER、MUTINGの各機能も同時にメモリーされますので、同じ局(周波数)で機能別のプリセットも可能です。

## 7 TUNING チューニング・ノブ

回転式のチューニング・ノブで、ツマミに直結した光学的パルス発生器によって、ツマミの回転をパルス信号に変換し、これでシンセサイザーをコントロールして受信周波数を変えるアキュフェーズ独自の方法です。

左にまわすと周波数は下降し、右にまわすと上昇します。  
受信可能帯域の上限や下限に到達すると、それ以上まわしても周波数は変化しません。  
放送局に同調すると、“STEREO”または“MONO”が点灯します。  
プリセット受信時でも、チューニング・ノブをまわすとプリセット番号が消灯し、その周波数をもとに手動チューニングが優先して動作します。

### ⚠ 注意

国内へ出荷されているものは、電源が100V仕様で、受信帯域が76.0~90.0MHzです。海外では使用できません。

## 8 POWER 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。本機はマイクロプロセッサにより各種の動作をコントロールしています。この回路は、不揮発性メモリーでバックアップされていますので、電源を切る直前の状態を長期にわたり記憶します。  
オーディオ・タイマーを使用して放送を録音したり特定の時刻に受信を開始するときは、電源を切る前に選局をしたり他の機器も含めて、スイッチ類の状態をセットしておいてください。

## 9 METER メーター

5 METERスイッチの選択によってSIGNALまたはMULTIPATHの量を表示します。

### SIGNAL

アンテナ端子に入ってくる電波の強さを指示します。マルチパスがCLEARの範囲にあり、さらにこのメーターの指針ができるだけ右に大きく振れるように、FMアンテナの調整をしてください。

### MULTIPATH

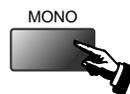
FM放送電波のマルチパス(テレビ映像のゴーストのようなもの)の量を表示し、指針がCLEARの範囲にあればマルチパス最小で、良好な受信状態を示します。右の方へ大きく振れるときは、受信アンテナの位置がマルチパスの影響を受け易い位置にあり、アンテナの調整などが必要です。  
(10ページ参照)

## 10 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-12の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。

## 11 MONO 強制モノ・ボタン

ステレオ放送受信時にこのスイッチを押すと、強制的にモノフォニックにすることができます。



押して“ON” : MONO点灯  
再び押して“OFF” : 自動的にSTEREOまたはMONO点灯

通常はOFFの状態で使用します。  
電波が弱く、STEREOとMONOが頻繁に切り替わって、わずらわしい場合にも有効です。  
強制モノ動作は放送が受信されているときに有効です。  
チューニング・ノブで他の局の受信に周波数を移動しても、再度スイッチを押すまで、動作は変わりません。

## 12 ディスプレイ部

- A STEREO/MONOインジケータ  
放送局に同調したとき、放送内容に応じて、STEREOまたはMONOが点灯します。  
MONOスイッチがONの場合には、ステレオ放送を受信中でもMONOが点灯します。  
MUTING OFFで微弱電波を受信している場合にはどちらも点灯しないときがあります。
- B 周波数インジケータ  
受信周波数を表示します。
- C MEMORY/STATION番号インジケータ  
MEMORYボタンを押すと、約5秒間MEMORYが点灯します。CHナンバーは、選局したSTATIONボタンの番号を表示します。
- D SELECTIVITYインジケータ  
③SELECTIVITYボタンにより選択度がNORMALかNARROWを表示します。
- E METERインジケータ  
⑤METERボタンにより、メーター機能がSIGNALかMULTIPATHかを表示します。
- F MPX FILTERインジケータ  
②FILTERボタンを押してフィルター回路ONのとき点灯します。
- G MUTE OFFインジケータ  
④MUTINGボタンを押してミュート動作OFF状態のとき点灯します。

## 13 ANTENNA アンテナ端子

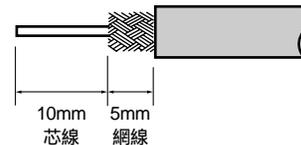
チューナーがいかに良くてもアンテナが適性を欠いていると、その性能をフルに発揮することができません。FM受信には、正しいアンテナの選択と使用方法を心がけましょう。

FMアンテナの給電線は、平行2線式フィーダー(300)と同軸ケーブルの2種類がありさらに同軸ケーブルは50と75の2種類があります。本機のアンテナ端子の入力インピーダンスは75のアンバランス型になっていますので『3C-2V』同軸ケーブルを使用してください。同軸ケーブルを図のように加工してから、付属の『F型コネクタ』を取り付け、アンテナ端子と接続します。

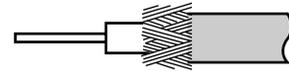
『5C-2V』同軸ケーブルを使用する場合には、線材が太いため、市販の『5C-2V用F型コネクタ』を使用してください。  
300の平行フィーダーには、市販の『300/75変換アダプター』を使用してください。

### 《付属のF型コネクタと同軸ケーブルの接続》 同軸ケーブルは、『3C-2V』を使用してください。

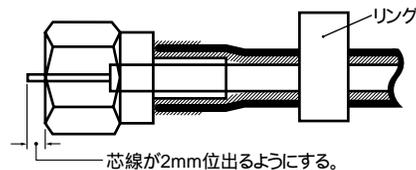
1. 同軸ケーブルを図のように加工します。



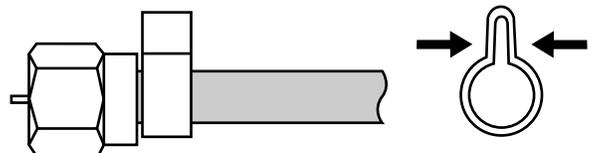
2. 網線を被覆の方に折り返します。



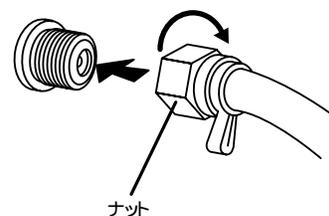
3. リングを入れてから、コネクタを同軸ケーブルの中に押し込みます。



4. プライヤーなどで、リングを、プライヤーなどで矢印の方向にはさんで、固く締め付けてください。

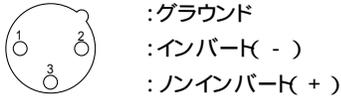


5. 芯線が曲がらないようにアンテナ端子に挿入し、ナットで固定します。



## 14 BALANCED 平衡出力コネクタ

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクタです。アンプの入力コネクタがバランス入力を装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。ピンの極性は、



となっていますので、プリアンプなど受ける側の極性を確認して接続してください。

出力レベルは固定ですので、OUTPUT LEVELで可変できません。

バランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。

## 15 UNBALANCED 不平衡出力端子

通常のピンプラグ付オーディオケーブルで出力を取り出すときに、この端子をご使用ください。

FIXED - 出力レベル固定の出力端子

この端子は、**1** OUTPUT LEVELをまわしても出力レベルは変わりません。

CONTROLLED - 出力レベル可変の出力端子

OUTPUT LEVELをまわすと、任意の出力レベルに可変できます。他のプログラム・ソースに音量をあわせる場合にご使用ください。

## 16 AC電源コネクタ

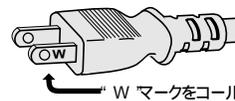
付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V家庭用コンセントをご使用ください。

電源コードの極性表示

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。機器とこの極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合があります。本機も電源の極性を合わせるように配慮し、電源プラグのコールド側に『W』マークを刻印しています。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。



室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側ですが、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。



内部をあけると危険です。

電源が入らなくなった場合は、内部にあるヒューズが切れた可能性がありますので、必ず当社の品質保証部または当社製品取扱店へご連絡ください。

## 6. リモート・コントロール

### リモート・コマンダーRC-12の取り扱い方

付属のリモート・コマンダーRC-12を使うと、離れたところからT-109Vをコントロールすることができます。

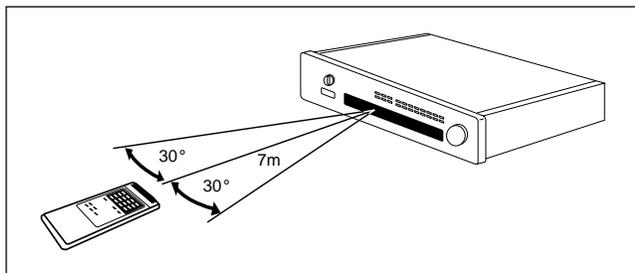
電源スイッチのON/OFF、OUTPUT LEVELのコントロールはできませんが、その他の操作はT-109V本体と同じです。

### 使用方法

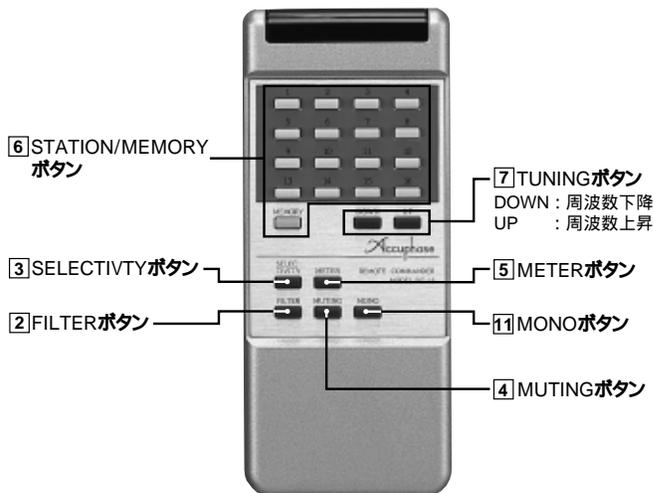
リモート・コマンダーの発光部をT-109V本体のリモート・センサーに向けて、下の図の範囲でお使いください。

落としたり 内部に液体をこぼさないでください。

直接日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないでください。



発光部  
(本体リモートセンサー⑩に向ける)



(数字は、本体の動作説明の数字と同じです。)

### 電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月はもちますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

### ⚠ 注意

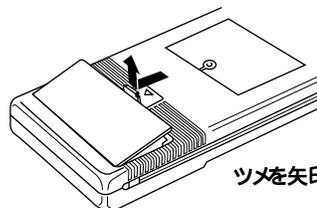
乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕(プラス) ⊖(マイナス)を正しく合わせてください。新しい電池と、1度使用したものを混ぜないようにしてください。

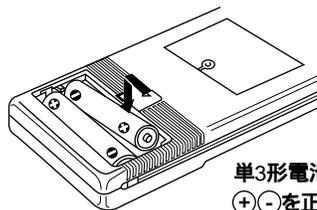
同じ形状でも、性能の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないようにしてください。長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておいてください。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。

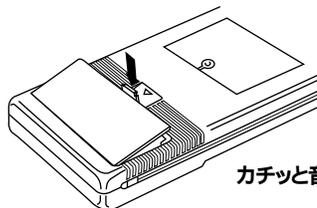
### 乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押して蓋を開ける。



単3形電池2個、  
⊕ ⊖を正しく入れる。

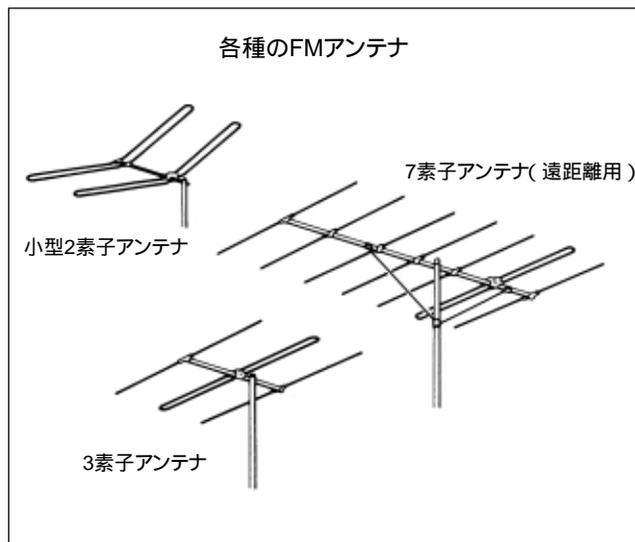


カチッと音がするまで閉める。

## 7. FMアンテナについて

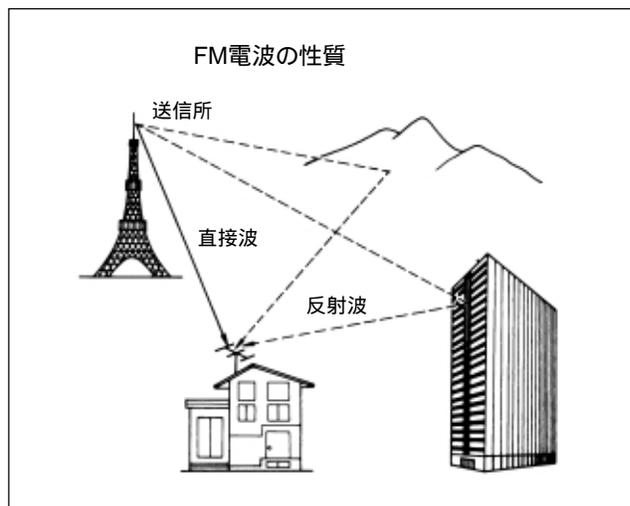
### FMアンテナの選びかた

近距離でも遠距離でも一方からの電波をよくキャッチする指向性の良いアンテナを選びます。近距離用には位相差給電式と呼ばれる小型2素子(5素子の指向性がある)か、3素子アンテナを選び、なるべく屋外へ建てます。電波の強いところでも、マルチパス(テレビのゴースト、多重反射波)の多い場所では、5素子あるいは7素子を使用してください。素子数が多いほど感度が上がり指向性が鋭くなります。



### FMのマルチパスについて

マルチパスは、FM放送に使われている電波の性質上、送信所からの直接波のほかに、山やビルなどにぶつかって少し遅れてきた反射波が同時に受信アンテナに入ってくるということです。このように直接波と反射波が同時に入ってくると、受信した信号にひずみが発生したりS/Nを悪化させたりします。メーター機能を「MULTIPATH」にしてメーターの指針が「CLEAR」マークの範囲に入るように、また、「SIGNAL」にしたとき、メーターが大きく右に振れるように、アンテナの調整をしてください。



### FMアンテナの設置

アンテナの高さが10m位までは高さに比例して感度が上がりますから、なるべく高い場所へ設置してください。アンテナからチューナーまでの給電線は、75 の同軸ケーブルが塩害、水滴の影響が少なく、途中で拾う雑音も少ないのでおすすめできます。近距離では300 の平行フィーダーでも差し支えありません。アンテナの方向は、希望の送信アンテナの方向に向け、マルチパス・メーターの振れが最小になる向きを選んで固定すれば、ひずみが最小になります。自動車雑音の多い場所では、自動車が屋根や建物で見えなくなるような位置を選べば軽減することができます。

### 【ご注意】

FMの室内アンテナは、屋外アンテナに比べて1/10~1/20の感度しかなく、マルチパスを受けやすいので、恒久的なアンテナは、必ず屋外へ建てて質の良い電波を取り入れてください。

## 8. 保証特性

\*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。

**受信周波数** 76.0 ~ 90.0MHz

### [モノフォニック]

感度 **実用感度** 11dB( IHF )  
S/N50dB感度 17dB( IHF )

定在波比 1.5  
S/N( 80dBf入力、A補正 ) 90dB

全高調波ひずみ率  
( 80dBf入力、±75kHz**偏移**、SELECTIVITYスイッチNORMAL時 )

20Hz 0.02%  
1kHz 0.02%  
10kHz 0.02%

IMひずみ率( 80dBf入力、±75kHz**偏移** )  
0.01%

周波数特性  
10 ~ 16,000Hz +0 -1.0dB

2信号選択度( IHF )

妨害波	選択度( NORMAL )	選択度( NARROW )
400kHz	70dB	100dB以上
300kHz	30dB	100dB
200kHz	10dB	40dB

キャプチャー・レシオ 1.5dB  
RF相互変調 80dB  
スプリアス妨害比 120dB  
イメージ比 100dB  
AM抑圧比( 65dBf入力 ) 80dB  
サブキャリア抑圧比 70dB  
出力電圧( ±75kHz**偏移** ) 1.0V

### [ステレオ]

感度 S/N 40dB感度 29dB( IHF )  
S/N 50dB感度 37dB( IHF )

S/N( 80dBf入力、A補正 ) 85dB

全高調波ひずみ率  
( 80dBf入力、±75kHz**偏移**、SELECTIVITYスイッチNORMAL時 )

20Hz 0.04%  
1kHz 0.04%  
10kHz 0.04%

IMひずみ率( 80dBf入力、±75kHz**偏移** )  
0.03%

周波数特性  
10 ~ 16,000Hz +0 -1.0dB

ステレオ分離度  
100Hz 50dB  
1kHz 50dB  
10kHz 40dB

ステレオ切替入力感度  
20dBf

### [その他]

アンテナ入力  
75 不平衡( F型コネクター )

同調方式  
クォーツ・シンセサイザー方式  
16局ランダムメモリー・チューニング

検波方式  
アドバンスドDGL方式

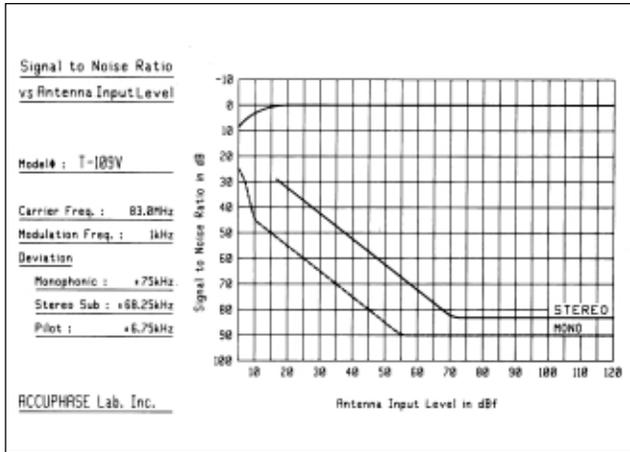
出力インピーダンス  
BALANCED( 平衡 XLRタイプ ) : 200 ( 100 / 100 )  
UNBALANCED( 不平衡 )  
FIXED( 固定出力 ) : 200  
CONTROLLED( 可変出力 ) : 1.25k ( 最大 )

メーター 信号強度 / マルチパス 切替式  
電源 100V、50/60Hz  
消費電力 15W  
最大外形寸法 幅475mm × 高さ140mm × 奥行402mm  
質量 9.5kg

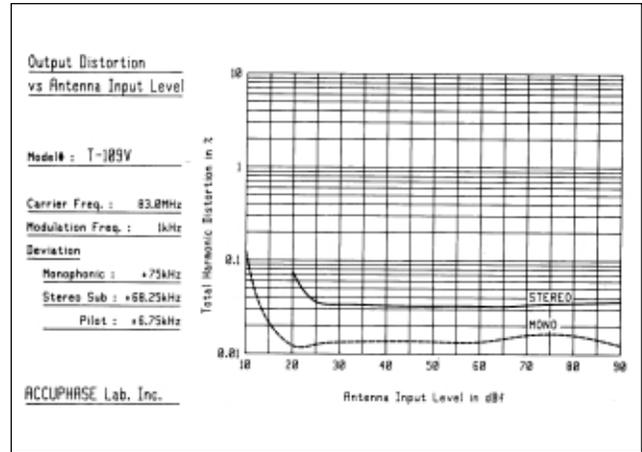
付属リモート・コマンダーRC-12  
リモコン方式 : 赤外線パルス方式  
電 源 : DC3V・乾電池 単3形 2個使用  
最大外形寸法 : 64mm × 149mm × 18mm  
質 量 : 145g( 電池含む )

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

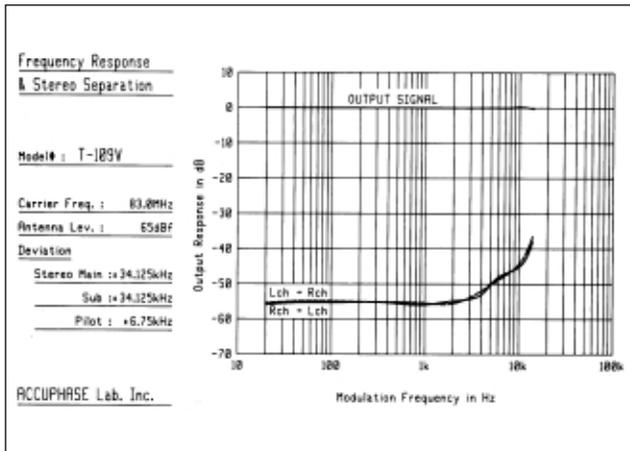
# 9. 特性グラフ



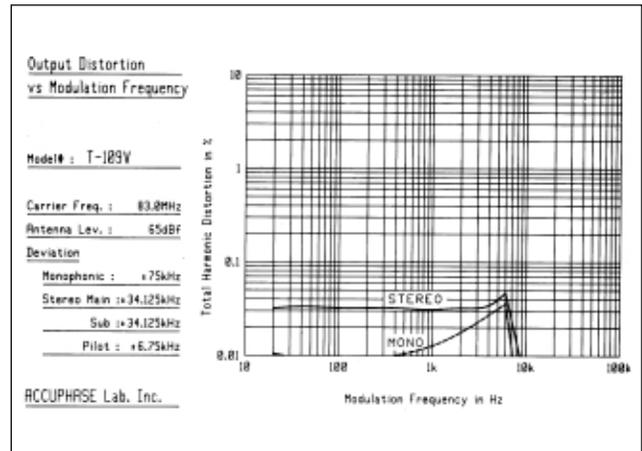
入力信号レベル / ノイズ・レベル (S/N) 特性



入力信号レベル / 全高調波ひずみ率特性



周波数特性およびステレオ・セパレーション特性



変調周波数 / 全高調波ひずみ率特性

## 著作権について

放送や録音物 (CD、テープなど) から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。



## 11. 故障かな?と思われるときは

故障かな? と思われましたら、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

 **注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切ってください。**

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

放送が受からない  
感度が低い

アンテナを放送局の方向に調整します。  
同軸ケーブルは正しく接続されていますか。

音がでない。またはレベルが低い

出力コードが正しくアンプに接続されていますか。  
アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。  
本機のLEVELボタンで出力レベルを確認します。

片側から音が出ない

出力コードを左右入れ替えます。  
同じ側から音がでない.....アンプ側に原因が考えられます。  
左右逆になる.....本機に原因が考えられます。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。  
電池の⊕⊖を確認します。  
新しい電池に交換してみましょう。  
受光部付近に障害物はありませんか。

## 12. アフターサービスについて

### 保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。

保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。

保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。

### 保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。

補修部品の保有期間は通産省指導により、製造終了後最低8年間となっています。

使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

### その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。

本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。

AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

### お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店をお願いいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部  
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10  
TEL 045(901)2771(代表)  
FAX 045(901)8995

### 修理依頼の場合には

“故障かな?”と思われる場合には、**をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。**

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

モデル名、シリアル番号	ご住所、氏名、電話番号
ご購入日、ご購入店	故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

**アキュフェーズ株式会社**

横浜市青葉区新石川 2-14-10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)